山岳科学総合研究所 友の会会報

2013年6月　第10号

東北の貴婦人に逢いに行きましょう

もくじ

第７回木曽御嶽現地研修会　報告 …… 2
会員リレーコラム …… 4
・鈴木　一　「熊野古道　小辺路巡礼」
・岡田　三次　「第７回現地研修会「木曽御嶽山の山麓を巡る」初めての参加」
・大嶋　元彦　「感動の第７回現地研修会ー霊峰木曽御嶽山の山麓を巡るー」
・堀内　恭子　「緑深き木曽谷を旅して」
上高地クエスチョン …… 8
おしらせ …… 8
編集後記 …… 8

第７回木曽御嶽現地研修会　報告

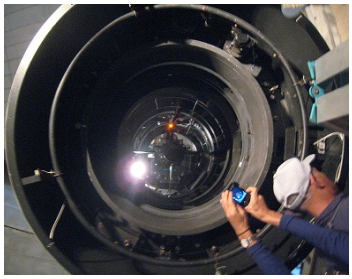
霊峰木曽御嶽山の山塊を巡る　（第７回現地研修会）

18（土）・19（日）と、御嶽山の麓**「王滝村」・「木曽町」・「開田高原」**で、新緑の山々の雄大な自然と、アカデミックな学びと、木曽名物の美味しいお酒をたっぷり堪能しました。

雄大な御嶽山　（三岳黒沢から展望）

18 日ＡＭ 9:20 **道の駅「三岳」**集合　（ 信大発 7:00　既に出来上がりつつある人もいましたが…)山口会長のご挨拶と、奥原事務局からスケジュールの確認。相変わらず抜かりのない手配です。友の会の皆様の日ごろの行いがよろしい所為か、木曽谷は快晴で迎えてくれました。

まずは、旅の暴飲（？）対策。長野県製薬工場見学してお腹の救急箱**「御嶽百草丸」**を求めました。



ＡＭ 11:00 東京大学天文学教育研究センター**「木曽観測所」**を見学。観測所助手の青木勉氏によるシュミット望遠鏡・写真乾板や彗星・小惑星の観測・超新星から宇宙の誕生について高度な天文学に耳を傾けました。特別に、70 トンの望遠鏡を稼働させていただき、さらに主鏡口径 1.5ｍのレンズをのぞかせて頂きました。大迫力に圧倒され貴重な体験をしました。

御岳湖から御嶽山を望みながら王滝村を登ります。**「牧尾ダム」**は水とともに文化を育む“愛知用水”知多半島の先端まで農業・飲料・工業用水を送っています。昭和 36 年に完成。

松原スポーツ公園木陰で昼食。(木曽町三岳弁当…岩魚と海老フライと山菜で 500 円は格安)

「森林鉄道体験乗車」鉄道の会事務局　植木雅史氏から謂われと曰くを伺い 2 班に分かれて乗車。皆さんで、森林鉄道の活動資金としてレール 10ｍ分ほど提供しました。中信森林管理署技術指導官の渡邉修氏からレールの切断部を頂きました。

「自然湖」（昭和の大正池？）昭和 59 年 9 月王滝村直下Ｍ6.8 地震により御嶽山の一部が斜面崩壊し、土石流が王滝川を堰止めて造成されたそうです。

あちこちに爪痕が痛ましく、自然の猛威を見せつけていました。

さらに登り**「限界集落」**三浦一族終焉の地滝越地区　子どもを運んだスクール鉄道**「山ばと号」**県境（県最西端）**「白巣峠」**（1380m）まで足を延ばしました。　御池山に続く**「王滝クレーター？」**

泊まりは　王滝村の**「おが山荘」**　（飲んだ酒６升＋ワイン６本+ビール+焼酎）地元の澤田義幸教育次長・植木氏・渡辺氏が木曽節で歓迎してくれました。

19 日（日）今日も晴れ（飲べいも百草丸のお陰？で皆元気）ＡＭ7:00 朝食　「おが山荘」のおがは地名の小河からだそうです。

爺ちゃん・お父さん・お母さん・娘さんで頑張っていました。夕食も朝食も美味しく頂きました。

山荘の周りは山桜・花桃・芝桜・水仙など花盛りでた。飯田より 1～2 カ月以上遅い春でした。

8:30 出発　**「三岳黒沢山巡り」**三岳ビュウポイントから　御嶽山（開田高原）・乗鞍岳・穂高も見えました。三岳とは　御嶽山・乗鞍岳・木曽駒が岳のことだそうです。

「御岳信仰」　歴史とお山の御利益・霊神碑等　澤田教育次長から解説頂きました。

「開田高原木曽馬牧場」

純粋木曽駒は絶滅したそうです。30 頭ほどが元気良く草を食んでいました。

「開田高原一巡り」

お勧めで高原名物アイスクリームを食べました。美味しかった。

標高 1335mの地蔵峠を越えて開田の御嶽山ビュウポイントから。

「唐沢の滝」飛騨街道の名勝の一つ**「地蔵峠」**（1335m）　開田高原への玄関口

お昼は**「開田そば」**　　お土産は**「ほうば巻」**。そして…解散…お疲れ様でした。

王滝村と開田高原を十分に満喫し、御嶽山の魅力を再認識しました。

王滝村は人口 900 人足らず。貧しい村と伺ってきましたが、インフラも整備され、各施設も充実して、何よりも触れ合う人々に活気がありました。フアンになりました。また訪れたいです。

市川副会長の御挨拶ではありませんが、変わり者の特異な人々が「友の会」という繋がりで、共に学んで、飲んで、語り合って、本当に楽しかったです。

王滝村の皆様、澤田様、渡邉様、島村様、竹原様、立花様お世話になりました。お酒も飲まずにすべてフォローされた事務局の奥原様ありがとうございました。

三浦　方也

リレーコラム

熊野古道　小辺路巡礼

5 月 18, 19 日の第 7 回現地研修会に参加させて頂きました鈴木一と申します。本会には昨年秋の入会ですが、会の行事への参加は今回が初めてで、新入会員として何かの文章をとのご依頼を頂き、拙文ながら 4 月に歩いた熊野古道について書かせて頂きました。

熊野古道は、近年世界遺産に登録された事を機に多くの方々に注目され、熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社などは多くの参拝客で賑わっております。一方で、古来より熊野参詣道として、又地元民の生活道路として歩かれてきた道であり、熊野古道とは大辺路、中辺路、小辺路、伊勢路、大峯奥駈道などの古道の総称であります。この中で今回私が歩いた小辺路は高野山から入り、東西に幾重にも連なる紀伊山地を超えながら紀伊半島を縦断する道であり、熊野本宮大社に通じる参詣道です。道中 1000m 級の 4 つの峠を越えながら山深い村々を通過する為か、古道の状態が比較的に良く残された山岳道路です。ただ、道路と言うよりも現代の感覚では登山道と言った方が良いかもしれません。一般的には、3 泊 4 日の行程で歩かれており、私の場合は 4 月中旬に休みが取れた関係で下記の日程で小辺路巡礼を行いました。

月日	行程	所要時間	上り	下り	宿泊
4/14	高野山～水ヶ峰～大股集落	6hr	490m	510m	民宿「かわらび荘」

4/15　大股～伯母子岳～三浦口　　7hr　　700m　1010m　　農家民宿「山本」
4/16　三浦口～三浦峠～十津川温泉　8hr　　720m　　940m　　民宿「やまとや」
4/17　十津川温泉～果無峠～本宮大社 8hr　　950m　　990m

今回の小辺路巡礼の旅は、私にとって 2 年越しの計画が実現したもので、数々の歴史を刻んだ道中の様子や、民宿の方々とのふれ合いなど、思い出多い山旅を行うことができました。小辺路はこれまでに多くの旅人により踏み固められ、上記のような数百 m の高低差を登下降する山道ながら、石や地面の凹凸も少なく全体的に随分と歩きやすい道でありました。また、石畳の古道も何ヶ所か残されていますが、これは紀伊山地の多雨による道の侵食を防ぐための知恵であることも知りました。道中には様々な茶屋や宿場の跡、集落の跡などもありましたが、「常なる物は無し」の例えを感じさせる様な、今は跡形も無く少しばかりの平地と石積みが残るような場所、かっての防風林が大木に成長している姿、山上に開墾した水田の跡などがあり、過ぎ去った歴史を感じさせる道でもありました。一方で、こんな所にという山上の緩やかな尾根筋に集落を作り棚田を作って今でも生活を営み続けている所では、日本の原風景を感じるような場所もありました。また、信仰の道でもあるので、道中には観音菩薩、地蔵菩薩、お堂なども多々あり、近畿の山に来たんだなと感じる場面もありました。

今回の山旅は民宿泊でしたので、宿での料理やご主人との交流も旅の楽しみの一つであります。2 泊目の農家民宿「山本」は、地元の農家の方が兼業で自宅への宿泊を提供されていて、普通の居間に泊まります。食事は客用の料理になりますが、農家のご夫婦と一緒に食事をする中、気軽な雰囲気で接して頂き、親戚の家に遊びに行ったような感じでした。夕食時には缶ビールを頼みましたが、ご主人からもう１缶サービスして頂けたり、最近捕れたという鹿肉を天ぷらで出して下さるなど珍味を味わう事もできました。鹿肉は最初の物がご主人曰く「これは固い」との事で、あらためて別の部位の柔らかい肉も頂けるなどサービス満点です。さらに、登山口への送迎もして頂けます。

さて、４日間の長旅は、最終目的地の熊野本宮大社でクライマックスを迎えることになりますが、単なる観光で参拝するのとは一味も二味も異なる充実感と感激を味わう事ができました。かなり自己陶酔の感がありますが、４日間の困難辛苦の後に神前にたどり着けたのだと思うと、普段信仰には縁遠い私でも感慨深いものがあり、思わず「二礼二拍手一礼」にも力が入りました。

以上、小辺路巡礼の旅について思いつくまま書かせて頂きましたが、紀州の山々をめぐる熊野古道はなぜか惹きつけるものがあり、大辺路、中辺路、小辺路、伊勢路等々興味は尽きません。是非、皆様も「熊野古道を歩く旅」に目を向けては如何でしょうか。

鈴木　一

第 7 回現地研修会「木曽御嶽山の山麓を巡る」初めての参加

島崎藤村の「夜明け前」序の章Ｉはじまりは「木曽路はすべて山の中である。あるところは岨(そば)づたいに行く崖の道であり、……この深い森林地帯を貫いていた。」藤村は故郷を愛し、信濃ではなく木曽人として人生を歩み続けた。

若いときにそんな思いを抱きながら、木曽巡りは今回で 10 数回になる。王滝にも山を含め 5～6 回訪れている。王滝森林鉄道の復活保存軌道に乗り、レール継ぎ目音や揺れと客車内木造設備が 40 数年前夏に剣岳三の窓から北方稜線を下り、仙人池経由阿曽原でテントを張り、ビールが飲みたく小屋に買いに行った時に関電の駅長？が尋ねるので、明日は日電水平道で下山です。駅長は地下トロッコ（関電黒部専用鉄道　黒四地下発電所～欅平）がここに停車する便があるので乗れと言うので、言葉に甘えて無料

で乗り、高熱隧道の熱さも伝わり、欅平駅の地下で巨大エレベーターにも驚き、レール音や揺れ方が当時の記憶が蘇えって懐かしさと感動であった。(現在は乗車させていません)

長野県西部地震によって御嶽山南斜面が大崩壊した2～3年前に宿泊した濁川温泉は林道から50m位下降した記憶があった。今や堆積物に被われ河床が上昇して面影はなく情景がかなり違っていた。唯一の救いは上流には堰止湖が自然湖と呼ばれ湖面から枯れ木とのコントラストが美しい場所である。

滝越集落は相模の国・三浦の領地を与えられ代々三浦(みうら)介(のすけ)と称した。伊勢新九朗（北条早雲）に攻撃を受け、三浦道(どう)寸(すん)（義(よし)同(あつ))、荒次郎（義(よし)意(もと)）父子は3年間もの新井城に籠城し1516年に討死したといわれているが、21歳の義意の遺体は不明だと伝えられて450年続いた三浦一族は滅び去ったと云う。三浦一族が何故、滝越に生き残っていたのか資料はないが伝承では義意は「三浦大夫」と呼ばれ、今、三浦の地は三浦ダムに沈んでいる。

島崎藤村は郷里の神坂小で講演したこがある。「血につながる　ふるさと　心につながる　ふるさと　言葉につながる　ふるさと」…少し間おいて…「私は『春』という言葉の意味がわかるようになるまでに10年間を費やしました」とつけくわえた。

今回の研修会では王滝村の関わった天文台の職員さん、森林鉄道の先生や皆さん、おが山荘のご主人や家族の皆さん、それから2日間案内や説明いただいた教育委員会の澤田さん、森林管理署の渡邊さん達にお話しを伺い、霊山の山麓に住み山の霊力「魂を御嶽山が引き取ってもらえる」と同じように不思議に安心感がありました。島崎藤村が言うように王滝村は『春』のように生き生きした自然の情景と皆さんの明るい顔が印象的でした。再び訪れたときは白巣峠から小秀山に登り、森林鉄道に乗りたいと思っている。酒有りの研修会は有意義な2日間でした。個人の旅では出来ないことをやってくれた友の会木曽在住の皆さんや幹事さんありがとうございます。次の研修会での涸沢は5年振りなので楽しみにしております。

岡田　三次

感動の第7回現地研修会－霊峰木曽御嶽山の山麓を巡る－

楽しい²大人の遠足だった。バスに乗車するや否や酒肴がふんだんに配られ皆の顔が綻ぶ。遠来で県外の参加者も、塩尻や木曽町で途中乗車した者も、すぐに旧知の友のような笑顔になる。心配された天気も上々、五月晴れである。

三岳道の駅：地域に密着した運営で季節感あふれ特徴ある地場産品と驚いたのは弁当と総菜品の多さ。**東京大学天文台**：信大の看板に確り敬意を表してくれた。大望遠鏡の操作・内部構造の開示、裏に裏までのご案内、友の会ならではの充実した見学であった。**王滝森林鉄道と松原スポーツ公園**：木材搬出と特に認められ地域住民の足でもあった王滝森林鉄道は総延長155キロメートルに及んで日本No.1を誇ったが、昭和50年道路網の発達により廃線となった。現在、有志が本線の略々中間点松原スポーツ公園周回2キロメートルのコースの復活活動に苦闘されていた。その松原スポーツ公園は、県西部地震により牧尾ダムに溜まった土砂を搬出し、20mもの高さに埋め立てられた高台にある。その管理棟周辺で昼食をとった。眼下を流れる王滝川はニュージーランドの風景にも似ており、雄大で気持ちが洗われた。**自然湖**：県西部地震で出来た湖で、かつての大正池や白樺湖のようで湖面に立ち枯れた樹木が神秘的に映ってい

る。若者がカヌー遊びをしていた。**王滝村のクレーター？**：昨年南信の現地研修会で坂本先生からその存在を示唆されていたが、地図上では人跡未踏に近い遠隔地故、素人が単独で出掛けられそうもなく断念していた。白巣峠近くに在って半径百米弱の丸い池の円弧は極めてハッキリしており、まさにクレーター!!!念願成就。そして近くの高台から望むコニーデ型の御嶽山にも感動した。夜の会食：飲み物持込み OK の条件にも背中を押され、楽しいトークや地元の方々による歌あり踊りありで、楽しい²ノミニケーションは深更まで盛り上がった。
翌日は王滝・三岳・開田・木曽福島と夫々趣の異なる林間の道をドライブ。場所で形が変わっていく御嶽山を眺め、絶滅が危惧されたこともあった木曽馬を見て、最後は名店「とちの屋」で美味しいソバを堪能!!!そして次回研修会での再会を約束し合って楽しく有意義で充実した遠足（研修会）の幕引きがなされた。満足²。
「人間の最大の仕事はいい笑いをみんなで作り合うことだ」と語った作家がいた。「友の会」はまさしくこの事を具現している素晴らしいパーティだと思う。これからも無理せず、楽しく気楽に、仲良く元気でいつまでも‥‥‥。そして事前に周到な準備で研修会を完遂され、多種多様なオプションを繰り出し、サプライズを連発した事務局及び地元役員の並々ならない取り組みに深謝!!!

大嶋　元彦

緑深き木曽谷を旅して

朝 4 時起きなのでとっても眠い。でもウトウトして乗り越したら大変なので、外の景色をしっかり見ているうちに松本に着く。アルプス口からバスに乗ると男性ばっかり！どうしよう。場違いな場所に来てしまったかも…困ったナー。

21 名を乗せたバスの車内はお酒や話が飛びかい、たいへん賑やかです。百草丸の工場を最初に見学する。皆今夜の宴会のため？胃腸薬を購入したらしい。そして、山の上の東京大学天文台では大きなロケットの様な望遠鏡を動かしていただく。いつか星空を見てみたいものです。

いよいよバスはムラサキヤシオ咲く道を王滝村へ。御嶽山に向かう道の両側には、たくさんの碑が林立して、御嶽信仰の深さを感じました。この村は良質のヒノキの産地として知られ、森林鉄道によって大量に輸送されたそうです。私達もかわいい列車に乗って当時をしのびました。

宿泊地の「おが山荘」では、心のこもった料理とお酒・ビールが並び、皆遅くまで交流を深めていました。
次の日は、かわいい木曽馬を見たり、おいしいおそばに舌鼓を打ち、朴葉巻きをおみやげに充実した旅を楽しみました。

堀内　恭子

？上高地クエスチョン？

上高地の驟雨（しゅうう）

6月7日金曜日、今日も多くの団体客で賑あう上高地。11時過ぎ突然の驟雨に見舞われた。傘を開く人や持ってない人が慌てふためいて建物の下に飛び込む。

上高地は今年も今のところ空梅雨模様。5月の積算雨量は112㎜、平年（255.6㎜）の44%、寡雨だった昨年同月（160㎜）の70%でした。

山岳盆地の上高地は穂高など高い山に囲まれています。天気予報は雨でも突然の激しい雨に見舞われます。

山岳気象の予測は難しいと聞いていますが、多くの観光客が訪れる上高地だけに、出来ればなるべく正確な情報がほしいものです。

驟雨に見舞われ、上着を引っ掛けて河童橋を急ぎ渡る人を見かけると、いつか見た浮世絵を思い出したりします。

家を出るときは晴れていても、天気予報が晴れであっても、山に入るときは必ず雨具をもって行きましょう。

お・し・ら・せ

◎第９回現地研修会

上高地の植物をテーマに7月20・21日上高地で開催します。詳細は同封チラシのとおりです。夕方からは恒例の大人のキャンプ。上高地の「神降る地」の夜は格別です。帝国ホテルでのランチのまた楽しみです。多くの会員の参加をお持ちしています。

◎上高地キッズキャンプ

子供さん（小学生）を対象に8月5・6日に上高地で開催します。会員の皆さまでこのキャンプに協力をしていただける方を募集します。詳しいことは事務局までお問い合わせください。

◎第10回現地研修会

表紙の写真を見て一目で「鳥海山」だとわかる方は「山通」です。秀麗なその姿は「東北の貴婦人」とも言われています。

10回目の記念すべき現地研修会は、この山と山麓の文化を感ずる旅です。詳細は同封のとおりですが、共通費用の軽減もあって20名以上の参加者を募集したいと思っています。友人知人にも声をかけていただき、是非多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

◎会費の納入お願いします

会費の未納の方にお願いです。当会の運営は会費と研修会等の参加者負担金で成り立っています。夏に向け、さまざまな催事が予定されています。

まだ納入されていない皆さま、なるべく早めに納入くださるようお願いいたします。

編集後記

会報が10号までまいりました。思えば2011年11月創刊号を発行して1年とほぼ半年、会員の皆さまのご協力で一応節目を迎えることができたと感謝していますが、回を重ねてもいつも急造の紙面で満足のいくものではありません。

これからも地道に我々の活動をまとめ、出来るだけ会委の皆さまに活動に参加いただけるような紙面にしてまいりたいと考えています。更なるご協力をお願いします。

さて、第7回現地研修では木曽の皆さまに大変お世話になりました。感謝です。夏に向け楽しい催が予定されています。どうぞ気軽にご参加ください。（友の会会報編集委員会）

山岳科学総合研究所友の会会報　第10号
発行日：2013年6月11日
発行：山岳科学総合研究所友の会
〒390-8621　長野県松本市旭3-1-1
信州大学山岳科学総合研究所友の会事務局
TEL：0263-37-2432　FAX：0263-37-2438
E-mail：ims-support@shinshu-u.ac.jp